

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり夢		
所在地	静岡県浜松市東区中野町4258		
自己評価作成日	令和3年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和3年 12 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和3年 10月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>スタッフの経験値も向上し、資格取得や社内研修で、常に向上心を持って取り組んでいることで、入居者の体調変化や心の変化にすぐ気づくことができ、迅速に対策や在宅医療医と相談が出来ている。コロナ禍で面会や外出が減る中、毎月のお便りで、御家族はに日々の活動や写真で安心して頂けるよう努力している。歯科衛生士の指導のもと口腔ケアや食前の口腔体操は習慣化され、誤嚥性肺炎も減っており、入居者様も体操を楽しみにされている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は入れ替わりが少なく長く仕事に就かれている方が多い。個人個人の勉強会、研修会もしっかり行われている。職員は各委員会に必ず参加し、自分の担当委員会の研修を受け自職場の研修も講師として発表を行うシステムができています。資料を基にレポートを提出したり、テスト形式の研修も行われている。コロナ禍で家族との面会はできないが便りや電話にて利用者の日々の状況などを頻回に連絡をとるようにしているため、家族からも安心の声が聞かれている。10月に管理者が変更になったが、新しい管理者は「職員の声を聴きながら、良いところは伸ばしていきたい。外出支援ができるようになったら、以前のように地域や外に出ていきたい」と意欲的である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に事業所の理念を掲げていて、入社時、役職研修時でも、再確認をし、個を尊重し生きがいのある安心した暮らしを常に念頭に入れて支援できるように、努めている。	入社時、理念の掲げられている場所の説明や、内容、なぜこの理念になったかの話をしている。年間研修計画にも、理念についての研修を取り入れ常に理念を念頭に支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染症により、地域の方々と交流することはなくなっているが、民生委員やこども食堂の方が、余った缶詰やお茶など使ってほしいと差し入れをしてくれることがある。	現在、地域との交流はできていないが、同じ町内にある子ども食堂の方や民生委員の方が差し入れを持ってきている。地域にとってもこの場所に施設があることがよく理解されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染症により、地域推進会議は、書面開催となっていて、なかなか難しいのが現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2. 4月より、感染対策として入居状況・待機者・企画等について議事録をFAX・ポスト投函させて頂き、評価・助言・要望等を意見で頂き、多くの意見を頂き、サービス向上に生かせるようにしている	書面ではあるが定期開催を行っている。参加者は今までと同じように、自治会長、民生委員、行政、家族であるが、いろいろな感謝の言葉が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の手続きに行き、ケアマネがケアプランを持参し、日頃の様子を含めて、説明をしたり、運営推進会議の参加を呼びかけ、議事録にご意見を頂いている。	生活保護の方が入居されていることから、行政との連携はよく行うようにしている。日頃の様子を含め、行政からの連絡もあり定期的に交流が持てるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適性委員会を設置し、3ヶ月に一度会議を開き、検討録にまとめて、職員周知等を行っている。毎月、身体拘束廃止実施減算チェックを行いファイリングしている、身体拘束を学ぶ研修を年2回実施している。	身体拘束の研修を年間研修計画に入れていく。資料は職員個々に渡し、レポート提出やテスト形式を用い身体拘束についての職員周知を図っている。委員会は三ヶ月に一回会議を行い、議事録をまとめている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を通して学んでいる、入居者様のケアの方法についても虐待につながっていないか、カンファレンスで話し合い、虐待防止を未然に防ぐように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている入居者様がおられるので後見人様方との関係を深め、心配なく生活できるように、支援している、年1回の研修(DVD利用)行って学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に1つ1つ丁寧に説明をさせて頂き、不安や疑問点の有無などの確認の上、契約書をサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態変化・認知症の進行状況の変化時は、その都度ケアマネが管理者が報告を電話をさせて頂き、また日常の様子などを家族から気軽に聴いて頂けるように信頼関係を築いている。	現在、面会のできない状況であることから、毎月のたよりで身体状況などの報告を行っている。写真を多く入れて家族に安心感を与えている。家族からは細かな状況が把握できて嬉しいとの言葉をもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に入り、職員とコミュニケーションを多くとり、指導員が年3回定期的に面談を行い、職員の意見などを聴く機会を設け、個々の悩みでも気軽に話せる機会を設けている。	相談員職が年3回(3月、6月、10月)定期的に面接を行っている。相談員も介護職として入っているために、その都度、職員から話が聞ける状況になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ手当など、資格取得を目指している、職員に毎月手当が支給されている、また得意分野を生かせるように個々の個性を生かせる業務分担作りをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が充実している、コロナ禍により、レポート提出方式だが、1人1人が自習学習出来るようにトレーニングできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策として、他の事業者との直接的な接触を控えているのが現状だが、連絡を取り合い、情報提供などができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の入居前の生活の把握をし、予測し困っていることが軽減できるようなケアプランを立て、要望・希望を尊重し、安心できる環境で生活して頂けるように情報交換・共有し、統一したケアを行うことで信頼関係を構築している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から御家族様等や必要に応じて担当者(ケアマネ)と情報交換を密にとり、要望など聞き入れると共にケアプランのサービス内容に記載し、入居後の様子の報告も随時行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご本人、家族様等が一番不安に思っている事、こだわっていること等を聞き入れ、優先順位を見極めて、ケアプランに取り入れ、職員間で統一した支援をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と洗濯畳み・干し・レクリエーションなどを一緒に行うことで、共に生活をさせて頂いて、支えあっている関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策として面会を控えているが、入居者様と御家族様等と電話にて話せる機会を設けたり、窓越しで顔を見せる等、絆を継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策として馴染みの人との面会も控えているが、友人より絵手紙や贈り物が送られたり、関係が途切れないように支援している、電話にてお礼を伝える機会も設けている	直接会う事が出来ない状況の中、電話や贈り物が多く届くようになった。前もって連絡の来る家族には玄関スペースにおいて感染対策(パーティーション使用など)を十分に取しながら面会できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が交流できるように、入居者様の要望を聞きながらも、孤立させないように十分配慮して、テーブル席の配置をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も様子を伺ったり、当施設で支援していた内容を情報提供させて頂いたり、相談があれば協力させて頂いている、退去後も相談が気軽にできるような関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション等を通して、ご本人からの要望等を読み取り、カンファレンスにて職員間で情報を共有し、ご本人の要望に応えられるように努めている	毎日午後15分程度ではあるが、カンファレンスを行いその日に出た希望や意見を必ず職員間で共有できるように努め、誕生日会等の行事に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様等に協力して頂き、詳しく生活歴や馴染みの物(タンス)等に触れた生活ができるように、旦那様や御家族様等の写真を飾るなどの対応をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを1日1回行い、意見を出し合い、心身状態等の把握に努め、必要に応じて、見直し、再検討、試し期間等を設けて、入居者様の生活がよりよい生活ができるように、努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行なっているサービスが実施できているか項目でチェックを行い、支援できているか確認を行っている、また他職種から意見を伺い、現状把握に努めている	他職種(医者、看護師、歯科衛生士、栄養士など)と話し合いを行い、毎日のサービスができていかどうかをチェック表で行い、それを基に介護計画が作成できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを通じて職員の意見を聴き、サービス内容実施記録のチェックの結果、3ヶ月1回にアセスポイントグラフのデータを分析して、ケアノートを活用して職員間で情報共有して、ケアプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏、不安になった入居者様へも時間を作り、傾聴したり、フロアー職員以外のケアマネ等が対応することで安心して頂けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策で、外から受け入れが難しいのが、現状だが、感染対策を徹底し、周辺への散歩を通してコミュニケーションをとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応できる協力医療機関と連携を図り、夜間の緊急にも対応して頂いている、月2回の往診と迅速な往診も整っていて、御家族様の要望等があれば専門科に診て頂き、適切な治療を受けられるよう支援している	協力医療機関はいつでも対応ができ、職員や家族も医療面での安心感がある。他機関の受診にも協力医療機関の紹介や連携等の支援があり、適切に受診ができるような支援ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態変化や気づきを随時、協力医療機関や看護師に相談や連絡をし、適切な受診や治療などを受け入れるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、御家族様等や入院先にこまめに様子の確認をし、情報収集を行い、病院関係の方との関係作りに努め、早期の退院の向けて対応し、必要時には、医師と協議し、御家族様の意向に添えるようにケアしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時重度化した場合における対応に係る指針の中に看取りや不慮の事故等を含めて、御家族様等に説明している、状態変化時は早い段階で医師を含め御家族様等と話し合い、今後の方針や支援について密に連絡を取り合い、支援させて頂いている	看取りに向けての指針は整備されており、2年前におひとり看取りが行われた。定期的に採血等を実施し、食欲の低下が見られる時は、今後について話し合いを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や急変時や事故発生時に速やかに対応できるように緊急時対応マニュアルや研修を実施し24時間相談できる医師等に処置を受けられる体制である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回に日中、夜間を想定して、水害・火災想定等の訓練を行っている、水害想定時には、水平訓練の実施もしている、年2回は近隣住民へ入居者様の避難方法を明記した書類を配り、居室の入口に札を掲げ誰でも分かるようにしている	水害や火災、夜間などの訓練は年3回実施しており、垂直避難も行われている。近隣住民への支援方法もお願いできており協力関係が築けている。訓練は行われているがまだBCP作成ができていない。	近年災害が多発しており、被災後の支援方法などスムーズに移行できるように、BCP作成を早急に整備することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の個を尊重し、生活史を把握し、人格を損うことがないように人生の大先輩であることを常に頭におき言葉かけ等の対応をしている、プライバシーに関する研修も年1回行い、声かけ月間を作り自分達の声かけを見直す機会を設けている	プライバシーに関する研修も年1回行われており、声掛けの仕方について振り返りの場となっている。毎月強調月間を設け「声掛け月間」があり、委員を中心に見直しが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々のコミュニケーションを大切にしながら、御本人様のご希望や思いを表現できる機会を設け、自己決定が難しい方は御本人様主体で考えて対応を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活スペースを大切に、御本人様のご意向を尊重しつつ生活リズムを作っていくように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声かけや介助を行い、髪分け方を聴いたり、更衣時には、気候に配慮しながら、御本人様の希望を聴いて用意をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代で食事作り、好まれる物を多めに献立に入れ、季節ごとにイベントで沢山食べれるように工夫している、入居者様とテーブル拭きや食器洗いなどを一緒に行っている	食事づくりや献立は全て職員が行っており、利用者の好みなどをすべて把握できている。お茶や、缶詰などの差し入れもある。利用者はテーブル拭きや食器洗いなどを手伝ってくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に食事形態や量に合わせて対応し、栄養バランスを考えている、食事以外の時間に水分補給の時間を設け、脱水にならないように配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合わせて口腔ケアを行い、歯科衛生士の出勤日には、口腔内状態等の把握をし、定期的な歯科往診にて対応等のアドバイスを頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各階3ヶ所ずつ居室からすぐに見つかる場所にあることで困ることがないように、排泄ができ日中は出来るだけトイレでの排泄を促し、入居者様一人一人にあったトイレの声かけ、誘導を促している	寝たきりの方1名を除き全員リハビリパンツで日中、夜間共に過ごしている。一人ひとりの排泄時間を把握して誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外の時間に水分補給の時間を設け、午前のおやつ時に牛乳、昼食時にヨーグルトをお出しして便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴時間を午前と午後に分けて、事前に声かけをして、御本人様のペースで入浴準備が出来る、受診前日に入浴出来るよう配慮したり、季節の菖蒲湯や柚湯も毎年行っている、高齢の方は、入浴後すぐに横になったり休める時間を作っている	週2～3回の入浴支援をしている。入浴日や入浴時間は固定せずに、その日の状況や前に入浴した日などを考慮し決めている。入浴後に休める時間を設けるようにしたり、菖蒲湯や柚湯など季節ごとに入浴方法を工夫し、ゆったりできる時間を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせて日中も居室で休まれる時間を設けている 入居者様の睡眠時間を把握し入床時間を変更し睡眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関することは、医師や看護師の指示の上、確実に入居者様一人一人に合わせた内服介助方法で確実に内服介助している、薬の在庫等の把握は薬局が行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能の生かし、洗濯量みや掃除、楽しくできるように生け花や塗り絵等で気分転換になるように支援させて頂いている、毎月イベントを計画し気分転換をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出が難しいのが現状だが、庭の散歩を中心に支援させて頂いている、収束後は、以前のように、外食支援や公園散歩、幼稚園の訪問も検討していきたい	施設回りは田畑が広がる空間があり散歩に適しているが、コロナ禍で外への散歩ができないため、施設の庭周りを歩くようにしている。収束後は今まで通りの外出や散歩を考えており、初詣には近所の神社に行く計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の能力やご希望により、小銭程度のお金を手元を持つ方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍である為、御家族様等との相談の上、手紙や電話のやりとりが行えるよう、御家族様等と入居者様の絆を大切に支援させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策として入居者様が過ごしやすいように温度・湿度設定を行い、1時間おきに5分程度の換気をしている、フロア入口にイベントの写真を飾り写真を見て季節感を感じられる工夫をしている、季節を感じられるフロアの飾りつけやイベントを通して過ごせるようにしている	お掃除専門のパートさんや庭にある畑や花の世話をしてくれるパートさんがおり、庭の花を生けることで季節感を出している。湿度や温度計で居室内管理を行ったり、定期的に換気を行ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて入居者様同士で談話したり、TVやDVDを見たり、体操をしたり、入居者様一人一人に合わせた場所が作れるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室作りの際は、御本人様や御家族様等の要望に応じて家具や電化製品等の今まで使っていた物を持ち込んでいたり、家族の写真等を飾り、居心地のいい空間作りが出来るよう工夫している、表札も付けて自分の部屋という認識ができるようにしている	今まで使用していたものを持ってきていただけるようお願いをしているので、ダンスやテレビ、写真やお位牌など今まで使用していた物や、自分の部屋に置いてあったものを持参している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように一人一人の入居者様に表札を設置し自分の部屋が理解できるようにしている、居室からどちらに歩いても、トイレや人の気配が感じられるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり空		
所在地	静岡県浜松市東区中野町4258		
自己評価作成日	令和3年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和3年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年 10月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフの経験値も向上し、資格取得や社内研修で、常に向上心を持って取り組んでいることで、入居者の体調変化や心の変化に、すぐ気づけ、迅速に対策や在宅し医療医と相談が出来る。コロナ禍で面会や外出が減る中、毎月のお便りで、御家族はに日々の活動や写真で安心して頂けるよう努力している。歯科衛生士の指導のもと口腔ケアや食前の口腔体操は習慣化され、誤嚥性肺炎も減っており、入居者様も体操を楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に事業所の理念を掲げていて、入社時、役職研修時でも、再確認をし、個を尊重し生きがいのある安心した暮らしを常に念頭に入れて支援できるように、努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染症により、地域の方々と交流することはなくなっているが、民生委員やこども食堂の方が、余った缶詰やお茶など使ってほしいと差し入れをしてくれることがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染症により、地域推進会議は、書面開催となっていて、なかなか難しいのが現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2. 4月より、感染対策として入居状況・待機者・企画等について議事録をFAX・ポスト投函させて頂き、評価・助言・要望等を意見で頂き、多くの意見を頂き、サービス向上に生かせるようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の手続きに行き、ケアマネがケアプランを持参し、日頃の様子を含めて、説明をしたり、運営推進会議の参加を呼びかけ、議事録にご意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適性委員会を設置し、3ヶ月に一度会議を開き、検討録にまとめて、職員周知等を行っている。毎月、身体拘束廃止実施減算チェックを行いファイリングしている、身体拘束を学ぶ研修を年2回実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を通して学んでいる、入居者様のケアの方法についても虐待につながっていないか、カンファレンスで話し合い、虐待防止を未然に防ぐように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている入居者様がおられるので後見人様方との関係を深め、心配なく生活できるように、支援している、年1回の研修(DVD利用)行って学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に1つ1つ丁寧に説明をさせて頂き、不安や疑問点の有無などの確認の上、契約書をサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態変化・認知症の進行状況の変化時は、その都度ケアマネが管理者が報告を電話をさせて頂き、また日常の様子などを家族から気軽に聴いて頂けるように信頼関係を築いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に入り、職員とコミュニケーションを多くとり、指導員が年3回定期的に面談を行い、職員の意見などを聴く機会を設け、個々の悩みでも気軽に話せる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ手当など、資格取得を目指している、職員に毎月手当が支給されている、また得意分野を生かせるように個々の個性を生かせる業務分担作りをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が充実している、コロナ禍により、レポート提出方式だが、1人1人が自習学習出来るようにトレーニングできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策として、他の事業者との直接的な接触を控えているのが、現状だが、連絡を取り合い、情報提供などができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の入居前の生活の把握をし、予測し困っていることが軽減できるようなケアプランを立て、要望・希望を尊重し、安心できる環境で生活して頂けるように情報交換・共有し、統一したケアを行うことで信頼関係を構築している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から御家族様等や必要に応じて担当者(ケアマネ)と情報交換を密にとり、要望など聞き入れると共にケアプランのサービス内容に記載し、入居後の様子の報告も随時行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご本人、家族様等が一番不安に思っている事、こだわっていること等を聞き入れ、優先順位を見極めて、ケアプランに取り入れ、職員間で統一した支援をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と洗濯畳み・干し・レクリエーションなどを一緒に行うことで、共に生活をさせて頂いて、支えあっている関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策として面会を控えているが、入居者様と御家族様等と電話にて話せる機会を設けたり、窓越しで顔を見せる等、絆を継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策として馴染みの人との面会も控えているが、友人より絵手紙や贈り物が送られたり、関係が途切れないように支援している、電話にてお礼を伝える機会も設けている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が交流できるように、入居者様の要望を聞きながらも、孤立させないように十分配慮して、テーブル席の配置をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も様子を伺ったり、当施設で支援していた内容を情報提供させて頂いたり、相談があれば協力させて頂いている、退去後も相談が気軽に行えるような関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション等を通して、ご本人からの要望等を読み取り、カンファレンスにて職員間で情報を共有し、ご本人の要望に応えられるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様等に協力して頂き、詳しく生活歴や馴染みの物(タンス)等に触れた生活ができるように、旦那様や御家族様等の写真を飾るなどの対応をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを1日1回行い、意見を出し合い、心身状態等の把握に努め、必要に応じて、見直し、再検討、試し期間等を設けて、入居者様の生活がよりよい生活ができるように、努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行なっているサービスが実施できているか項目でチェックを行い、支援できているか確認を行っている、また他職種から意見を伺い、現状把握に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを通じて職員の意見を聴き、サービス内容実施記録のチェックの結果、3ヶ月1回にアセスメントグラフのデータを分析して、ケアノートを活用して職員間で情報共有して、ケアプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏、不安になった入居者様へも時間を作り、傾聴したり、フロアー職員以外のケアマネ等が対応することで安心して頂けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策で、外から受け入れが難しいのが、現状だが、感染対策を徹底し、周辺への散歩を通してコミュニケーションをとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応できる協力医療機関と連携を図り、夜間の緊急にも対応して頂いている、月2回の往診と迅速な往診も整っていて、御家族様の要望等があれば専門科に診て頂き、適切な治療を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態変化や気づきを随時、協力医療機関や看護師に相談や連絡をし、適切な受診や治療などを受け入れるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、御家族様等や入院先にこまめに様子の確認をし、情報収集を行い、病院関係の方との関係作りに努め、早期の退院の向けて対応し、必要時には、医師と協議し、御家族様の意向に添えるようにケアしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時重度化した場合における対応に係る指針の中に看取りや不慮の事故等を含めて、御家族様等に説明している、状態変化時は早い段階で医師を含め御家族様等と話し合い、今後の方針や支援について密に連絡を取り合い、支援させて頂いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や急変時や事故発生時に速やかに対応できるように緊急時対応マニュアルや研修を実施し24時間相談できる医師等に処置を受けられる体制である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回に日中、夜間を想定して、水害・火災想定等の訓練を行っている、水害想定時には、水平訓練の実施もしている、年2回は近隣住民へ入居者様の避難方法を明記した書類を配り、居室の入口に札を掲げ誰でも分かるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の個を尊重し、生活史を把握し、人格を損うことがないように人生の大先輩であることを常に頭におき言葉かけ等の「対応をしている、プライバシーに関する研修も年1回行い、声かけ月間を作り自分達の声かけを見直す機会を設けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々のコミュニケーションを大切にしながら、御本人様のご希望や思いを表現できる機会を設け、自己決定が難しい方は御本人様主体で考えて対応を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活スペースを大切に、御本人様のご意向を尊重しつつ生活リズムを作っていくように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声かけや介助を行い、髪分け方を聴いたり、更衣時には、気候に配慮しながら、御本人様の希望を聴いて用意をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代で食事作り、好まれる物を多めに献立に入れ、季節ごとにイベントで沢山食べれるように工夫している、入居者様とテーブル拭きや食器洗いなどを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に食事形態や量に合わせて対応し、栄養バランスを考えている、食事以外の時間に水分補給の時間を設け、脱水にならないように配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合わせて口腔ケアを行い、歯科衛生士の出勤日には、口腔内状態等の把握をし、定期的な歯科往診にて対応等のアドバイスを頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各階3ヶ所ずつ居室からすぐに見つかる場所にあることで困ることがないように、排泄ができ日中は出来るだけトイレでの排泄を促し、入居者様一人一人にあったトイレの声かけ、誘導を促している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外の時間に水分補給の時間を設け、午前のおやつ時に牛乳、昼食時にヨーグルトをお出しして便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴時間を午前と午後に設けている、事前に声かけをして、御本人様のペースで入浴準備が出来ている、受診前日に入浴出来るよう配慮したり、季節の菖蒲湯や柚湯も毎年行っている、高齢の方は、入浴すぐに横になったり休める時間を作っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせて日中も居室で休まれる時間を設けている 入居者様の睡時間を把握し入床時間を変更し睡眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関することは、医師や看護師の指示の上、確実に入居者様一人一人に合わせた内服介助方法で確実に内服介助している、薬の在庫等の把握は薬局が行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能の生かし、洗濯量みや掃除、楽しくできるように生け花や塗り絵等で気分転換になるように支援させて頂いている、毎月イベントを計画し気分転換をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出が難しいのが現状だが、庭の散歩を中心に支援させて頂いている、収束後は、以前のように、外食支援や公園散歩、幼稚園の訪問も検討していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の能力やご希望により、小銭程度のお金を手元を持つ方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍である為、御家族様等との相談の上、手紙や電話のやりとりが行えるよう、御家族様等と入居者様の絆を大切に支援させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策として入居者様が過ごしやすいように温度・湿度設定を行い、1時間おきに5分程度の換気をしている、フロア入口にイベントの写真を飾り写真を見て季節感を感じられる工夫をしている、季節を感じられるフロアの飾りつけやイベントを通して過ごせるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて入居者様同士で談話したり、TVやDVDを見たり、体操をしたり、入居者様一人一人に合わせた場所が作れるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室作りの際は、御本人様や御家族様等の要望に応じて家具や電化製品等の今まで使っていた物を持ち込んでいたり、家族の写真等を飾り、居心地のいい空間作りが出来るよう工夫している、表札も付けて自分の部屋という認識ができるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように一人一人の入居者様に表札を設置し自分の部屋が理解できるようにしている、居室からどちらに歩いても、トイレや人の気配が感じられるようにしている		